

次世代産業人材育成事業

1. 現状・課題

- ☑職業現場との連携推進による学校教育と実社会とのギャップ解消
→現場の企業・団体との連携を強化し、最新の技術やニーズを取り入れることが必要
- ☑新しい技術や時代の変化に対応するため、デジタルマーケティングや先端機器の操作、新たな介護機器の操作等の人材育成やそれらに対応するマインドの醸成が必要

2. 新長計での記載内容

- ☑社会見学、職場体験、インターンシップなど、各学校段階に応じたキャリア教育の推進
- ☑地域の職業人から職業観について直に学ぶ機会の充実など、地域産業界との連携強化
- ☑新たな価値を生み出していく精神（アントレプレナーシップ）を備えた人材の育成

取組方針

産業教育における各分野でのデジタル技術の活用や職業マインドの醸成による、新時代を担う産業系人材の育成を目指す

3. 取組内容

☑商業教育の推進

「新たな価値創造」の実現に向けて、主体的に社会の形成に参画し、地域創生を牽引するビジネス人材の育成

○地域創生を牽引するビジネス人材の育成

・ビジネス探究プログラムや商業高校生MICEの実施による意識の醸成

☑工業教育の推進

急速に変化する技術革新に柔軟に対応し、各々の個性・能力を活かす職業人材の育成

○産業人材確保に向けた取組強化

・キャリアプロデューサーを活用した保護者対象の県内企業視察等による生徒と保護者の進路を意識したキャリア教育の推進

○生徒の将来を見据えた上級資格挑戦への研究・実施

・技能検定を指導する教員の固定化や技術の低下による資格取得の低迷 → 職業能力開発協会や企業等による教員向け研修

☑デジタルスキル・イノベーションマインド`育成の推進

先端技術を活用し課題解決を提案・実行できる地域IT人材の育成

○ドローン等先端技術の活用やコーディネーターの設置による、新たな価値創造の素地やイノベーションマインドの醸成

ドローンプログラミング講座・小学校出前授業



☑福祉教育の推進

持続可能な福祉社会実現に向けた、教育の展開・充実による福祉の中核を担う人材の育成

○福祉先端知識技術教育の実施

・福祉先進国（デンマーク）とのオンライン研修による、最先端の知識・技術を持ち、常に学び続ける人材の育成を行う。

○地域福祉実践活動による福祉マインドの醸成

・高齢者サロンや学校デイサービス等の実施や、小・中学校への出前授業等を実施
→成果発表会の実施による他生徒への普及



☑農林水産教育の推進

時代のニーズに対応した農林水産業を担う人材の育成

○専門的な知識と技術を高める取組

・生産者及び企業との連携による実践的な技術研修やマイスター・ハイスクールの水平展開による専門技術の向上



○地域に根ざした深い学びの実践

・地域の生産者等と連携した課題研究による安全な食料生産や先端技術活用能力の育成
→合同成果発表会による学びの深化・波及



(現
状)

○商業系高校における検定試験は、生徒に達成感を与え、学が意欲を維持し、自己有用感を形成するなど学力向上において一定の役割を果たしており、各学校における指導ノウハウの蓄積や実績も十分であり、授業と検定試験が直結したカリキュラムが編成されている。検定試験は入学意欲にも一定の影響を与えている。
○ポストコロナの社会変革が求められる中、急速なデジタル化、グローバル化等といった急激な社会環境の変化を受容し、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探究したり、新しい価値を提供できる知識・能力・態度（アントレプレナーシップ）を備えた人材の育成と2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手（イノベーション人材）の育成、さらには、日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図る資質・能力の育成が求められている。

(課
題)

◇生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り開いていくための力を育むことが必要。
◇2050年ごろに必要とされる能力・スキルは大きく変化する → 事務的スキル（コンテンツ・ベース）から、創造的スキル（コンピテンシー・ベース）へ（経済産業省 未来人材ビジョン）
◇目的や課題を自ら設定して、その実現や解決のために、他者と協働したり、当事者として考え行動したりしながら、結果に責任を持って取り組む力（主体性と当事者性）の育成が必要。
◇今後必要となる力 ・ 新たな価値を創造する力 ・ 対立やジレンマを克服する力 ・ 責任ある行動をとる力（OECD（経済協力開発機構）
・ リーダーシップ・挑戦心・自己肯定感・忍耐力などの資質（日本経済団体連合会）

変化の激しい社会を生き抜く力と意欲

本事業の目的

地域課題の発見・解決策の考案、スモールビジネスの構想・実践など「新たな価値の創造」の実現に向けて、主体的に社会の形成に参画し、地域創生を牽引するビジネス人材を育成する実践的・体験的・協働的な学びの創出

Challenge ① 産業界等との連携・協働による地域のビジネス人材育成

○おおい地域未来塾（地域の課題発見・解決アイデアソン）

対象：商業系学科・コース・類型の1年生 6校
内容：地域課題発見→解決策提案までの一連の活動を通じ、地方創生を担う意識の醸成と、課題発見・解決の思考方法を身に付ける。課題解決に向けたビジネスプランを提案。

地域課題解決

○おおいビジネス探究プログラム（探究的な学び×ケースメソッド）

(a) おおいビジネス探究プログラム 対象：商業系学科・コース
内容：ケースメソッドによる実社会に繋がる実践的・探究的な学び
(b) ケースメソッド教授法研修 + 県外実践校との交流（教職員向け）
内容：ビジネス基礎（R7）～マーケティング～課題研究の系統的な探究学習プログラムの構築

探究学習

Challenge ② 新たな価値を創造するアントレプレナーシップ人材育成

○おおいスタートアップ・トライアルキャンプ

対象：商業系高校生 40名程度（①は100名）日程：5日間
内容：起業家的思考力と起業家的行動力を醸成し、実践力を育成。
Day① ミートアップ～現役の起業家との出会い、語り合い
Day② スモールビジネスチャレンジ～チームで疑似的株式会社を設立・運営
Day③④スタートアップチャレンジ～ビジネスアイデアの発案・ブラッシュアップ
Day⑤ プレゼンテーション～リフレクション&アクション

アントレプレナーシップ

○地域共創アントレプレナーシップ養成講座

内容：地元起業家等と連携した地域の未来を創るビジネスプランを考案する授業を通じてシビックプライドを醸成 → 地域ビジネス人材の育成
外部講師招聘授業による実践的・体験的な学びと地域連携の推進

産業界との連携 外部人材活用

Challenge ③ ホスピタリティ・マインドの醸成

○OITAおもてなしマイスター養成講座

対象：商業系高校生 80名程度 日程：3日間
内容：ビジネスマナー研修+外国語コミュニケーション力の向上
コンテストを実施し「おもてなし」のスキルとマインド（思いやり・人間尊重・多様性の受容）、実行力を備えた人材の育成を図る

大分商工会議所連携事業

産業界との連携 豊かな言語力

○OITAオンリーワンのおもてなしコンテスト

対象：OITAおもてなしマイスター養成講座受講生徒 80名程度

Challenge ④ 学習成果の還元・発信

○イベントプロデューサー養成講座

対象：商業系高校生 希望者（商業系高校生MICE実行委員）
内容：参加者の満足度と参加意識の高いイベントの企画・運営について理解し、実践できる発想力と実行力、コミュニケーション能力を備えた人材の育成を図る。

アントレプレナーシップ

○商業系高校生MICE（Meeting・Incentive・collaboration・Event）

対象：商業系高校 16校
内容 (a) 地域創生ビジネスイベント（MICE）の開催
大分駅前広場における大規模ビジネスイベントに企画・運営
店舗運営・販売活動・ワークショップ等の企画・運営体験による実践力の向上
(b) 学習成果発表（商業教育フェア）の開催
県内商業系高校の研究成果発表会（地域課題の解決策、価値創造の提言等）を実施
地域や産業界へ商業の学びを広く紹介+学校間の連携、交流を深める機会とする
県内3地域を輪番で開催することで地域との連携強化および理解促進を図る

産業界との連携

学習成果還元・交流・発信

工業教育の推進

背景

- 産業界や高等教育機関、地域団体との連携による実践的な学びの推進
- 地方創生の観点から、県立高校に期待される役割の高まり
- 技術革新が加速する中、新たな価値を創り出す力や高度で探究的な学びの必要性

目的

急速に変化する技術革新に柔軟に対応し、各々の個性・能力を活かす職業人の育成

取組① キャリアプロデューサーを活用した県内企業との連携強化 《産業人材の確保》

● 課題

- ・ 県内就職率の向上（県内の産業人材の不足）
（R2→65.2% R3→72.0% R4→70.3% R5→65.0%）
- ・ 県内企業の理解の促進
より体験的な活動の拡大（魅力や強みの新たな発見）
情報発信の工夫・改善（生徒・保護者）

取組内容

- 地元企業と連携した工業教育の強化
 - ・ 外部人材との協働による授業づくり
↳（外部講師招聘、企業見学会、研究支援、安全教育、実技指導）
※体験的な活動を増やし、県内企業の魅力を知る
- 保護者を対象にした県内企業視察《新規》
 - ・ 県内企業の魅力をより深めるための体験活動
↳ 県内12校の工業系高校（保護者）を対象
 - ・ 生徒と保護者の進路を意識したキャリア教育
 - ・ 保護者の抱く工業就職のイメージと実際の職場のギャップ払拭
- 県内企業の情報収集・整理・分析の改善
 - ・ 上記の取組と連動した取組について、学校と企業のコーディネート
↳ 企業側の人材育成、キャリアビジョンについての分析・発信

取組② 専門性を活かした『ものづくり』の取り組み強化 《産業人材の育成》

● 課題

- ・ 大分の次世代を担う技術人材の育成
- ・ 高度な知識や技術、技能の習得
- ・ ものづくりマインドの醸成（技術力の向上）
- ・ 未知の課題に挑戦する力や創造性の育成（発想力の向上）

取組内容

- 『ものづくり』に取組む生徒への活動支援
 - ・ 技術力の向上
↳ 実技実習・ものづくりコンテストへの支援（物的支援・技術的支援）
※企業との連携
- 最先端技術を活用した企業見学・現場見学
 - ・ 知識技術の向上、学びの質の向上
↳ DX推進企業の見学、(DX人材、半導体人材、土木人材)の育成
- 県内企業と連携した研究、開発
 - ・ 専門的な資質能力の向上
↳ 体験学習・課題研究の課題解決に向けた技術的支援及び研究伴奏
- 知的財産教育の推進
 - ・ 創造性豊かな人格の形成、創造力に富む人材の育成
↳ 出展に至るまでの取組支援、特許取得に向けての取組み支援

連携組織図



- ・ インターンシップの充実
- ・ 県内企業魅力発信
- ・ 技術力の向上

期待される成果

◎ 県内就職率の向上
（県内企業の理解促進）

◎ 技術力の向上
（職業資格取得、ものづくりコンテスト）

次世代産業人材育成事業 デジタルスキル・イノベーションマインドの推進

1. 現状と課題

- 第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション(DX)、六次産業化等、産業構造・仕事の内容は急速かつ絶えず革新。
- コロナ禍の中、DX、IoTの進展の加速度がさらに高まり、革新の流れは一層急激に。
- デジタル化がもたらす第4次産業革命が進む中で、産業構造や消費者行動・考え方が大きく変化。

【参考データ】「(デジタル人材の育成・確保に向けて) 令和4年2月4日 デジタル田園都市国家構想」

- 日本人労働者のデジタル/テクノロジーのスキルは64か国中62位。(IMD「デジタル競争ランキング」2021)
- デジタル人材の7割強がIT企業内に偏在。(IPA「IT人材白書2017」)
- 国内事業会社の約9割がIT人材の質・量ともに不足感を感じている。(IPA「DX白書 2021」)
- 国内のIT技術者数の約6割が東京圏に集中している。(国勢調査2015)

□ 先端技術を活用した生産性の向上や新たな価値の創出を実現する**地域IT人材(ハードスキル・ソフトスキル)**の育成

□ 地域社会にイノベーションをもたらす地域産業の新陳代謝を図るアントレプレナーシップの醸成とDX人材の育成

先端技術を活用し、課題解決策を提案、実行できる**地域IT人材**の育成

先端技術を活用した学び(ハードスキル)の進化

① 先端技術活用プログラム >>> 先端技術活用の学びの進化

【目的】 先端技術を活用した生産性の向上と高付加価値の創造を実現する人材の育成

【概要】 [学校単位]学校での特別授業

【主な内容】①ドローンプログラミング講座・小学校出前授業
②SNS活用講座



ドローンプログラミング講座・小学校出前授業

先端技術を活用し主体的に問題解決を図る学習機会の創出
→ 地域IT人材としての意欲と能力向上

テクノロジーを理解し使いこなす **ハードスキル** の養成

課題発見・設定型学習(ソフトスキル)の充実

① イノベーションマインド醸成プログラム >>> 課題発見・設定型の学びの深化

【目的】 新たな価値を生み出し、地域社会にインパクトのある革新や刷新、変革をもたらすマインド(チャレンジ精神、探究心等)と資質・能力(情報収集・分析力等)を有するDX推進人材の育成

【概要】 [学校単位]学校での特別授業

【主な内容】①自己探求プログラム(3校)
②SDGs講座(8講座)



自己探求プログラム

SDGs講座

② 外部コーディネーターの設置

【目的】 地域の教育資源と学校を結びつけ、生徒の多様な能力を活用する「学びの場」を創出し、PBL学習の充実を図る

【概要】 [津久見] 外部コーディネーターの設置

【主な業務】外部講師招聘等による課題解決型学習の充実
地域と連携した学びの支援

調整力やコミュニケーション能力など **ソフトスキル** の養成

福祉教育の推進

現状

- 少子高齢化による全県的な介護従事者の不足。
- 2040年に向け医療・介護双方のニーズを有する85歳以上人口が急激に増加

(1) 県の政策・施策

- ① 大分県長期総合計画 『安心』4健康長寿社会の構築と安心できる医療・介護の提供
- ② おおいた高齢者いきいきプラン<第9期> 第3章1地域共生社会の推進
第4章2介護人材の確保・育成、3介護サービスの質の確保・向上

(2) 福祉系高校の状況

- 介護福祉士国家試験合格率 98.7% (R5)
・福祉系高校全国平均 95.9%
- 福祉系就職・進学者数 64名 (R6)
- 進学者の中には社会福祉士等の資格を取得し福祉施設や社会福祉協議会等で活躍する生徒も。

福祉教育の方向性

- 持続可能な福祉社会の実現に向けたスペシャリストの育成
- 地域共生社会の充実に向けて、福祉の中核を担う人材の育成
- これからの福祉の方向性を考え、社会福祉をアップデートできる人材の育成

取組内容

◎福祉先端知識技術教育

- ノーリフティング・ケアや、介護DX等進化し続ける福祉の最先端の知識・技術を持ち、学び続ける人材の育成に向けた教育
- 福祉先進国との交流
 - ・ 先進的な取組を行う施設、介護DXサポートセンター、大学との連携
 - ・ 福祉先進国(デンマーク)の福祉施設や教育機関におけるオンライン研修・交流を通して得た知識や経験を県内福祉高校や福祉施設へ発信する

◎地域共生社会の充実に向けた福祉教育

- 医療・福祉・介護等の専門家や、地域包括支援センター等との連携から、他職種連携の理解や、地域包括ケアシステムの充実に向けた知識や実践的態度を持つ人材育成に向けた教育
- ・ 地域の医療・福祉・介護に係る施設や事業所、地域包括支援センター、社会福祉協議会との連携

大分南高校
佐伯豊南高校
中津南高校耶馬溪校

◎地域福祉貢献活動の実践

- 地域福祉貢献活動の実践を通して、地域を愛し、地域に愛される福祉マインドを持つ人材の育成に向けた実践
- ・ 高齢者サロン、学校デイサービスの実施
- ・ 施設従事者による講習会や生徒による成果発表会等の実施
- ・ 小中学校への出前授業の実施

◎福祉教育発信活動の実践

- 福祉の魅力発信パンフレットの配布、SNS等への動画アップ
- パンフレットを配布や、福祉教育の魅力発信の動画作成・SNSへのアップをとおして、小中学生、ならびに地域住民に対して、福祉教育を発信
- 大分県との連携による魅力発信

効果・展開

持続可能な福祉社会実現に向けた、福祉リーダー育成のための教育の展開・充実

- 福祉系就職者・福祉系進学者の増加
- 地域共生社会充実に向けた基盤作り
- 先進的な意識を持つ福祉リーダーの育成

農林水産教育の推進

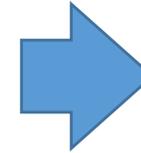
- 背景**
- 安全・安心な食料の持続的な生産に関する学習と先端技術に対応した学習の必要性が高まっている。
 - 市場動向の分析や新たな顧客を創出する柔軟な経営マインドを醸成する学習の充実が求められている。
 - 新規就業希望者の確保・育成に対するニーズは依然として高い。

＜これまでの成果＞

- デザインシンキングや先端技術活用による農業に対する興味関心の高まり
⇒農業系9校全体37.0%、マイスター・ハイスクール指定校63.0%
- 先進的農業者からの学び等により高卒新規就農者数が増加
⇒R2:9名 R3:8名 R4:21名 R5:17名 R6:12名

＜課題＞

- 先端技術等を導入した学習の水平展開
(年次進行で各校において実践)
- 就農希望者の安定的な輩出
- 経営に関する学習が不足傾向



＜今後の具体的取組＞

- 外部講師活用の工夫
- 農林水産部等との連携推進
- 先端技術の習得
- 生産現場での体験・見学
- 地域産業との連携

目的 時代のニーズに対応した地域の農林水産業を担う人材の育成

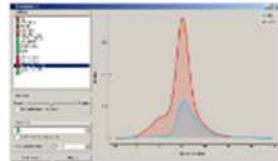
取組① 専門的な知識と技術を高める取組

○産業界や専門機関と連携した技術研修

- 外部講師や先進地見学等による実践力の習得
 - ・安全かつ効率的な食料生産
⇒GAPやHACCP手法の学習と実践、スマート農業
 - ・持続可能な林業・水産業に関する研修(日田林工、海洋科学)
 - ＜林業＞⇒林業界協力によるスマート林業の実践等
⇒林業研修所等での技術研修
 - ＜水産＞⇒【食品分野】海洋資源調査、未利用資源の活用
⇒【航海・機関分野】船舶ドック整備の現場見学
- 農林水産部等と連携した専門技術の学び
 - ・バイオテクノロジーによる花木苗生産等

○先端技術に関する学習(マイスター・ハイスクール成果の水平展開)

- 外部講師による実践研修と教員の指導スキル習得
 - ・デザインシンキングの手法を用いた課題解決スキルの育成
⇒アイデアソンによる課題の発見と解決
⇒課題研究等の探究学習の充実・深化
 - ・データサイエンスを取り入れた経営感覚の育成
⇒スマート機器活用による生産環境の可視化及び分析
⇒分析ツールを用いた市場動向調査



取組② 農林水産業の担い手を確保する取組

○くじゅうアグリ創生塾における農業人材の育成

- 多様な講師による技術者・経営者を育成する研修の実施

担い手育成	・若手農業者に農業の魅力を学ぶ(星空アグリ討論会等) ・大学校、4年制大学等への進路対応(農業系進学研修) ・普通高校高校生や小・中学生向け研修(アグリキャンプ等)
経営学習	・ブランド化等の経営戦略を学ぶ(No1から学ぶ等) ・農産物の輸出入・流通、マーケティング(海外研修)
(先端技術)	・農大等との連携による先端機器操作(農業技術研修) ・生産物に対する新たな価値の創造(6次産業化研修)

【R5年度の研修実績】
○経営に関する研修や知識・技術の向上研修など年間15講座を実施

○先進経営者等による研修受講者延べ569名

○農林水産部・振興局等との連携による一次分野の就業促進

- ・地域の農業法人等の現場見学
- ・学校単位での法人説明会
- ・高校生向け農林水産系合同会社相談会

取組③ 地域に根ざした深い学びの実践

○地域の生産者等と連携した課題研究

- ・生産現場の課題の掘り起こし
⇒地域の生産法人や農家等を訪問し課題を発見
- ・課題解決につながる技術や商品の開発研究及び地域への研究成果還元
⇒学校ごとの成果を地域等に公開

○学習成果の発表による学校・学科間交流

- ・学校・学科間連携による新たな価値創造
- ・合同成果発表会における学びの深化

＜期待される効果＞

- 専門分野の知識・技術と経営的視点を身に付けた産業人材の育成
- 探究的な学びの充実による産業の魅力への理解
- 一次分野・関連産業の担い手の増加